

人とのふれ合い、あたたかい抱きしめが 乳児期の信頼関係を築く

乳児期は、親子の基本的信頼関係(愛着)を作る土台の時期

【これまでの研究から分かること】

(ア) 子育ての基本的な過程をしっかりと理解することが重要である。

- ・乳児期の育児の基本は“抱いて、語りかけて、おっぱい”。これを満たすことで、愛着＝基本的信頼関係が形成され、次の自主性の発達過程とつながる。
- ・乳児期の父親の育児参加の本当の意味は、お母さんを精神的面も含め、支え、Hugする(抱きしめる)ことである

(イ) 母乳とミルクの物質的な差よりも授乳する行為が母性行動の発現に働き、子どもとの信頼関係に結びつく。

- ・母乳育児により愛着形成は強まるが、母乳をやれないお母さんへの支援を忘れてはならない。

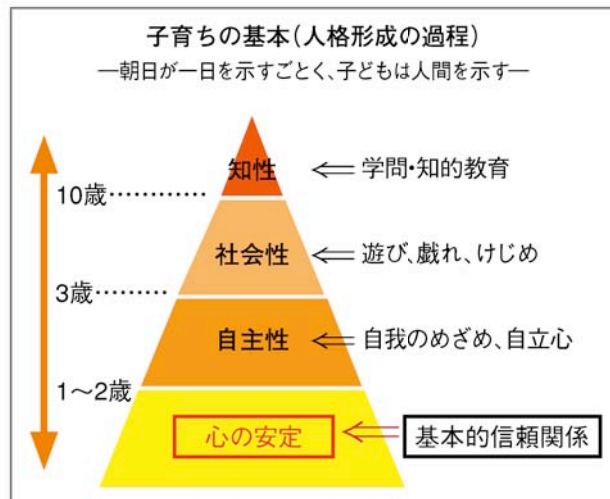
(ウ) 人間の発達には前頭葉(※)が深く関わり、人と人とのふれ合い、関わり、そして戯れ、遊びにより発達する。

(※) 情緒、感性、我慢、善悪の判断を司る

- ・幼稚園での遊び、けんか、多くの子どもとのふれ合いなどの体験は、前頭葉の発達を促す。けがをさせるのを怖れて、保育園、幼稚園で子どもが遊ばせられなくなっている。読み聞かせも、子どもの前頭葉の発達に大きく関わる。

(エ) 子どもの発達過程において育児の4層構造(家庭→子ども集団→地域→学校)が重要である。

- ・これが崩れ、その分家庭での育児負担が増加。家族が寄り添い、ふれ合い、母親の育児負担を軽減することも大事である。



橋本 武夫(久留米大学小児科臨床教授)

